

◇令和元年／2019年5月号 第93号◇

会 産経国際書会 報



SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



平成31年度／令和元年度総会で挨拶する伊藤富博会長代行（産経新聞社事業本部長）。4月1日に発行された、「令和」決定を報じる産経新聞号外を掲げ、新元号で高まった書道への関心を弾みにして、書会、新聞社一体となつてのさらなる躍進へつなげよう、と誓いました。次の目標は「2020東京オリンピック・パラリンピック」。外国のお客様の目も意識した作品で、産経国際書展をさらに高めていきましょう。



産経新聞社
代表取締役社長
飯塚 浩彦

輝かしい時代を創造しよう

30年余の歴史を紡いだ「平成」が終わり、「令和」が始まりました。会員の皆様には令和初となる意義ある第36回展に、新たな創作意欲を持って作品作りに取り組まれたことでしょう。新しい時代はいつの時も希望に満ちています。会員の皆様と新聞社がさらに一体となり、輝かしい時代を創造してまいりましょう。

産経国際書展では、昨年から第2分野の出品料、複数出品の出品料を見直す施策を実施しています。ジュニアコンクールと本展U23部門をつなぐ架け橋として、ジュニア展の高校A部門出品者には、U23部門の出品料を1点無料とする措置は一昨年からはじめ、大好評を頂いています。大きな作品を書くのが難しくなってきた高齢の方々、将来を期す若い人たちに少しでも出品しやすい環境を整え、書展に出す楽しみ、喜びを感じていただければ、と思っております。

書は日本を代表する芸術であるとともに、生涯にわたって無理なく続けられ、かつ人の人生を豊かにする文化・習慣です。そのためには門戸は広く、そして頂きは高くしていかなければなりません。来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。産経国際書会の力を世界に示すために、先生方の書活動の充実と、産経国際書展のさらなる発展を願っております。ともに頑張りましょう。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

新時代にむけてさらなる発展を

昨年の35回記念事業は国際交流を軸とした、「『書』でつなぐ世界と日本」及び「日本台湾交流書道展」を開催し滞りなく終了することが出来ました。会員の皆様のご理解ご支援に對し心から感謝申し上げます。

さて、平成の時代は4月をもって終わりとなり5月からは新元号「令和」がスタートしました。産経国際書会35年の歴史は平成とほぼ重なり合うわけですが、産経国際書会もまた新時代に向けてさらなる発展を目指していかなければなりません。

当面の課題としては、来年の東京オリンピック・パラリンピックへの対応があげられます。本展とオリンピックが同時期の開催となり、書を通じて日本文化を広く世界の人たちに広めていきます。なお、「『書』でつなぐ世界と日本」の企画は今年も継続してオリンピックに繋がります。

内向きの課題としては研修の充実です。8月に臨書を中心とした実践的な研修会を二日間にわたって開きます。臨書は創作の土台であることはいうまでもないことです。臨書と創作の間を螺旋状に行き来することで質の向上を図ります。

年度の初めに当たり、会員の皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

平成31年／令和元年 産経国際書会総会 開催



総会

平成31年／令和元年度産経国際書会の第35期通常総会が4月18日、東京都千代田区の手町サンケイプラザで開かれました。はじめに産経国際書会会長代行である伊藤富博産経新聞社事業本部長から「来年の東京オリンピック・パラリンピックに向け様々な事業に取り組み、産経国際書会や日本の書道を世界に発信していこう」と挨拶がありました。風岡五城理事長の進行で、議事録署名人に大庭清峰、建部恭子常務理事が選出され、34期事業、決算の報告があり、35期計画、予算などを審議し、各議案とも満場一致で承認されました。



懇親会

議案

1. 平成30年度・第34期(平成30年4月1日～31年3月31日)の事業報告
2. 平成30年度・第34期(平成30年4月1日～31年3月31日)の収支報告
3. 令和元年度・第35期(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の事業計画
4. 令和元年度・第35期(平成31年4月1日～令和2年3月31日)の予算
5. 人事案件

第34期 事業報告

◆第35回記念産経国際書展

審査日 平成30年5月22日(火)～5月25日(金)
会場 シアター1010ギャラリー(東京・北千住駅マルイ11F)
会期 7月27日(金)～8月3日(金)
会場 東京都美術館 ロビー階及び1階
第1、2、3、4展示室
作品数6,351点 入場者5,157人

贈賞式・祝賀会 7月31日(火)明治記念館

【イベント】

ギャラリートーク:27日(金)坂本香心理事長代行(高円宮賞)、岡美知子参与(韓国文化院長賞)、岩浅写心副理事長(日中平和友好条約締結40周年記念賞)、会長賞の河内紅蓮さん、大久恵華さん、理事長賞の諏訪春蘭さん。(約150人が参加)

座談会:29日(日)12時～13時30分

「書道界の現在・過去・未来」

冒頭30分間、笠嶋忠幸氏(出光美術館学芸課長)による基調講演の後、産経国際書会の福本会長代行の司会進行により、桑原喬氏(五禾書房社長)、澤田博史氏(匠出版社長)、藤崎敦司氏(藤樹社社長)の書道雑誌編集者3人と笠嶋氏を加えた5人で座談会を行った。(約50人が聴講)

揮毫会:29日(日)坂本香心理事長代行、石井長慶常務理事(各回200人観覧)

【特別展】

1. 特別色紙展

高円宮妃殿下の御題は「変」と「創」。63点展示。

2. 特別展示(タレントの書)

片岡鶴太郎、松村雄基、藤田三保子、岡部まり

3. 『書』でつなぐ世界と日本

世界の国々の駐日大使、大使に準じる方々に、毛筆と半紙を使い、それぞれのお国の言葉で、「愛」「友」を意味する言葉を書いていただいた。参加したのは、アフガニスタン、ベルギー、ブラジル、中国、チェコ、フランス、ドイツ、ギリシャ、インドネシア、パナマ、ポーランド、カタール、韓国、ロシア、英国、米国の16カ国、19作品。各国大使館に指導したのは総務部、企画部の先生方を中心に岩村恵雲、戸田汀香、山村汀春、金丸鬼山、鎌田悠紀子、北野香春、戸叶幽翠、浅香秀子、岩間清泉、人見恵風、加藤香雪、高木撫松、五月女久枝、竹澤玉鈴、宮川彪子、梶原碧川の16人(順不同)

※祝賀会には10カ国13人が出席

【特別賞と功労賞】

1. 第35回記念賞(評議員以下の審査会員1、無鑑査会員1、会友1=計3本)、第35回特別記念賞(小林静洲常任顧問)、日中平和友好条約締結40周年記念賞(岩浅写心副理事長)、第35回記念産経国際書展特別功労賞(片岡鶴太郎)

2. 「功労賞」表彰①個人=今までに30回以上出品、不連続可、それに準ずるものは184人②社中=今までに3,000点以上出品=9社

◆2018産経ジュニア書道コンクール

会期 平成30年7月27日(金)～8月3日(金)

会場 東京都美術館 2階第4展示室

作品数9,393点 入場者数3,514人

贈賞式 7月28日(土)東京都美術館講堂

揮毫会 特別賞受賞者14人が参加し贈賞式会場(講堂)で実施

◆第35回記念産経国際書展 東北展

会期 平成30年9月7日(金)～12日(水)

会場 せんだいメディアテークギャラリー 6階

作品数222点 入場者数 約1,500人

贈賞式 9月9日(日)ホテルメトロポリタン仙台

講演 坂本香心理事長代行 「移りゆく書の伝統文化について」(贈賞式にて)

◆第35回記念産経国際書展 新春展

大作下見検討会 平成30年9月20日(木) 国立新美術館 地下1階審査室

・出品者は伊藤春魁常務理事、渡邊祥華常務理事、小宮求茜理事、大久恵華さん(審査会員)、門山玲花さん(審査会員)、小野寺聖乗さん(無鑑査)、アラン・ロワさん(会友)の7人。
・風岡五城理事長、坂本香心理事長代行、渡邊麗理事長代行、金丸鬼山副理事長、高頭子翠副理事長、高橋照弘副理事長の6人で行った。

◆第35回記念産経国際書展 瀬戸内展

会期 平成30年9月25日(火)～30日(日)

会場 広島県立美術館

作品数317点 入場者数 約2,000人

贈賞式 9月29日(土)広島ガーデンパレス

作品解説 大庭清峰副実行委員長(常務理事)の進行で瀬戸内展特別賞受賞者による自作解説が行われた(29日10時から美術館にて)。

◆2018日本台湾交流書道展

会期 平成30年10月27日(土)～11月4日(日)

9時～18時

会場 国立国父纪念馆1階 博愛藝廊・両側文化藝廊

内容

1. 展覧会

日本228点=半切181点、小画箋2分の1(70×70cm)47点
台湾32点(135×45cm) 合計260点

2. 台湾訪問代表团

団長・飯塚浩彦産経新聞社社長、開催委員長・風岡五城理事長、実行委員長・勝田晃拓副理事長ほか総勢125人が参加

内訳:出品者84人、一般付添者23人、ジュニア招待者7人、ジュニア付添5人、産経新聞社(事務局)5人、マスコミ1人

3. 開幕式 10月28日(日)10時～11時

国立国父纪念馆講堂

呉釗燮・外交部長、沼田幹夫・日本台湾交流協会台北事務所代表らが参加し日本からは飯塚社長、田中鳳柳最高顧問をはじめ訪問団134人が参加した。

4. 祝賀会 10月28日(日)17時～20時30分、大三元酒樓

5. ジュニア交流 10月27日(土) 16時～18時

淡江大学・淡水キャンパス

団長・高橋照弘副理事長(ジュニア展審査長)、副団長・眞田朱燕常務理事(ジュニア展実行委員長)、高野彩雲理事(教育部会)はじめ日本側からは「2018産経ジュニア書道コンクール」のジュニア大賞・佐々木胡春(小5)、文部科学大臣賞・村上望華(中2)、産経国際書会理事長賞の木村佳鈴(高1)、産経新聞社賞の山田花楓(高1)、内川佳音(高2)、金原由依(高3)、奈良乃恵瑠(高3)の7名の皆さんと、特別参加の松山大学書道部の小松可奈子、田口亜香里さんを加えた9人が参加。書道で優秀な成績を収めている台湾の学生(小学生2人、中学生2人、高校生2人、大学院生2人)と揮毫交換などで交流を行った。

◆第35回記念産経国際書展 中部展
会 期 平成30年11月13日(火)～11月18日(日)
会 場 名古屋電気文化会館
作品数432点 入場者数 約2,000人
贈 賞 式 11月18日(日)キャッスルプラザ
作品解説 風岡五城理事長(18日13時30分から展覧会場にて)

◆第35回記念産経国際書展 関西展
会 期 平成30年11月27日(火)～12月2日(日)
会 場 大阪市立美術館
作品数455点 入場者数約2,500人
贈 賞 式 12月2日(日)天王寺都ホテル

◆平成30年度理事会
会 期 平成30年12月3日(月)
会 場 大手町サンケイプラザ303・304号室
参 加 出席者59人 委任状提出者99人
合計158/186人(84.9%)

◆第35回記念産経国際書展 新春展
大下見検討会 平成30年9月20日(木) 国立新美術館 地下1階審査室
Ⅱ(公募)審査 平成30年12月7日(金) 国立新美術館 地下1階審査室
会 期 平成31年1月23日(水)～2月4日(月)
会 場 国立新美術館
作品数873点 入場者5,785人
ギャラリートーク 1月31日(木)14時～15時
田村政晴常任顧問、松崎龍翠副理事長、伊藤春魁常務理事、小川艸岑常務理事、渡邊祥華常務理事、小宮求菫理事
大作出品者 伊藤春魁常務理事、渡邊祥華常務理事、小宮求菫理事、大久恵華さん(審査会員)、門山玲花さん(審査会員)、小野寺聖乗さん(無鑑査)、アラン・ロワさん(会友)の7人。
贈賞式・祝賀会 1月31日(木)16時～18時 明治記念館

第35期 事業計画

◆第36回産経国際書展 審査会
会 期 令和元年5月28日(火)～5月31日(金)
会 場 シアター1010ギャラリー
※5月27日(月)は作品搬入、懇親会

◆2019産経ジュニア書道コンクール 審査会
会 期 令和元年6月16日(日)※18日(火)に作品整理
会 場 東京都美術館
地下3階第4作業室B、審査室A・B

◆第36回産経国際書展
会 期 令和元年7月27日(土)～8月3日(土)
※展示替えは30日(火)
会 場 東京都美術館 ロビー階、1階
第1室～第4室(計8室)
贈賞式・祝賀会 7月31日(水)明治記念館 16時～

◆2019産経ジュニア書道コンクール
会 期 令和元年7月27日(土)～8月3日(土)
※展示替えは30日(火)
会 場 東京都美術館 2階第4室
贈 賞 式 7月28日(日)東京都美術館講堂 11時～

◆第36回産経国際書展 東北展
会 期 令和元年8月30日(金)～9月4日(水)

会 場 せんだいメディアテーク
贈 賞 式 8月31日(土)ホテルメトロポリタン仙台 15時～

◆第36回産経国際書展 瀬戸内展
会 期 令和元年9月24日(火)～9月29日(日)
会 場 広島県立美術館
贈 賞 式 9月28日(土)広島ガーデンパレス 14時～

◆第36回産経国際書展 中部展
会 期 令和元年11月12日(火)～11月17日(日)
会 場 愛知県美術館ギャラリー
贈 賞 式 11月16日(土)キャッスルプラザ 12時～

◆第36回産経国際書展 関西展
会 期 令和元年11月26日(火)～12月1日(日)
会 場 大阪市立美術館
贈 賞 式 12月1日(日)天王寺都ホテル 12時30分～

◆令和元年度理事会
会 期 令和元年12月3日(火) 14時～
会 場 大手町サンケイプラザ303・304号室

◆第36回産経国際書展 新春展
会 期 令和2年1月22日(水)～2月3日(月)
会 場 国立新美術館
贈賞式・祝賀会 1月30日(木)明治記念館 16時～

第34期 決算と第35期 予算

区分	第34期		第35期
収入	予算		予算
	会費収入等	92,400,000	96,096,615
支出	事業費	16,900,000	19,387,038
	国際書展出品料	32,550,000	34,724,000
	その他運営費等	42,950,000	43,455,874
			44,250,000

会費収入(単位:円)

区分	第34期決算	第35期予算
審査会員	54,983,000	55,300,000
無鑑査会員	21,568,000	20,400,000
会友	18,855,000	19,700,000
計	95,406,000	95,400,000

出品料(単位:円)

区分	第34期決算	第35期予算
審査会員(3万円)	19,050,000	19,050,000
無鑑査会員(2万円)	7,900,000	8,000,000
会友(1.3万円)	7,774,000	7,800,000
計	34,724,000	34,850,000

第35期 産経国際書会役員

2019. 4 ~ ○=新任(敬称略 50音順)

【会 長】	飯塚 浩彦						
【最高顧問】	齋藤 香坡	佐々木月花	田中 鳳柳	村越 龍川			
【会長代行】	伊藤 富博	福本 雅保					
【副 会 長】	伊藤 欣石						
【名誉顧問】	生田 博子	石川 天瓦	竹澤 玉鈴	手島 泰六	平方 峰壽		
	本多 道子	山下 海堂					
【常任顧問】	今口 鷺外	岩下 鳳堂	岩田 正直	上野 鶴陽	佐藤 志雲		
	島村 谿堂	青陽 如雲	田村 政晴	納谷 古石	原田 圭泉		
	松本 美娜	宮崎 春華					
【顧 問】	五十嵐光子	小名 雪王	加藤 深流	白崎 菖汀	樽谷 龍風		
	橋本 旭石	三上 錦水	森井 翠鳳				
【客員顧問】	齊藤 華秀	高畑 常信	武田 厚	竹中 幸生	趙 白鶴		
	平方 研水	劉 洪友					
【参 与】	岡 美知子	木村 春峰	久保 翠雪	須藤 松閑	夏堀 竹翠		
	望月 暁云						
【理 事 長】	風岡 五城						
【理事長代行】	坂本 香心	渡邊 麗					
【副理事長】	今田 篤洞	岩浅 写心	勝田 晃拓	金丸 鬼山	高木 撫松		
	高頭 子翠	高橋 照弘	武富 明子	正川 子葉	松井 玲月		
	松崎 龍翠	村田 白葉					
【事務局長】	糸 雅人						
【常務理事】	赤堀 翠柳	浅香 秀子	石井 長慶	石川 陽竹	泉 芳秋		
	磯邊 哲舟	伊藤 春魁	伊東 玲翠	今井 翠泉	岩田 蕙雨		
	岩村 恵雲	上村 陽香	江戸 秀虹	遠藤 乾翠	大庭 清峰		
	大橋 玉樹	岡本 杏華	小川 艸岑	小名 雪揺	小野 亭良		
	織茂 香葉	貝瀬 芳雨	鎌田悠紀子	黒田 浩芳	見學 素影		
	小杉 修史	五月女紫映	眞田 朱燕	澤田 香墨	鈴木 青苑		
	鈴木 祐洞	世木田江山	多田 游硯	建部 恭子	戸叶 幽翠		
	戸田 汀香	長尾 佳風	永田 龍石	中野 和博	西尾 秀誠		
	野崎 俊江	人見 恵風	堀江 宣久	町山 一祥	山本 晴城		
	吉田 永欽	吉野 富龍	渡邊 祥華				
【専管理事】	青木 錦舟	青柳 光草	安蒜 欣青	○生田 佳葉	石井 理春		
	遠藤 香葉	遠藤 有翠	老川 揺舟	奥村 桃曄	小野澤美香		
	梶原 碧川	加藤 香誓	鴨田 茜竹	菊山 武士	木住野 栄		
	北川 佳邑	北野 香春	木村 大澤	後藤 教子	小林 紫雲		
	近藤 豊泉	斎藤 秀翠	佐藤 志陽	篠原 秀朋	荘司 欣水		
	鈴木 愚山	鈴木 博子	鈴木 蓉春	○竹内 美翠	○橘 圭子		
	富田 静流	中井 庭峰	中野 桂月	中村 雪鷺	西尾 蘭畦		

【理事】	西川 万里	芳賀 祥緑	羽根田和香	林 龍成	久田 方琥
	菱沼 東坡	眞々田壽扇	三橋 和泉	諸留 大穹	渡部美恵子
	赤池 溪舟	石井 思水	石井 松苑	伊藤 牙城	○今井 軒石
	岩田 和道	上田 智子	梅内 春藍	梅原 凜溪	及川 扇翠
	大川 詢子	大澤 芳洲	大田 桂水	大段 栄泉	大場 映翠
	大八木雅山	岡野 蒼生	岡村 公裕	奥村 耕雲	小野 左鶯
	恩田 瑞貞	影山 瑤琴	梶谷 綾泉	加柴 律子	加藤 竹藜
	加藤 芳珠	川井 恵風	菊地 瑛華	久米 麗鳳	小泉 玲洸
	小杉 秀花	小林 千津	小宮 求茜	斎藤 修竹	酒井 竹風
	佐武 照聲	鐘 旭孫	沈 彊	菅原 有恒	杉原 静花
	鈴木 葉光	○諏訪 春蘭	関根 史山	関根 春峰	瀬戸 桂舟
	高野 彩雲	高橋 峰雪	武 翠泉	竹増 陽	田島 青谷
	田所 香風	田中 龍渕	玉木 白雲	○玉田 子翠	田村 恵子
	田村 美雪	辻 和雲	鶴田 秀紅	長瀬 沙焱	中塚 龍華
	○長谷川明扇	平岡 雄峰	平本 一恵	○古谷 華楓	細井 清琴
	松岡 輝峰	松岡 篁月	松岡 舟波	宮川 姦子	○三宅 秀紅
	宮平 翠玲	村瀬 敢山	室伏 雅籌	○本橋 春景	○山下 翠風
	山田 華萌	山田 秀園	山村 鳳羽	横溝 景陽	吉本 麗竹
	ラモス逸子	陸 氓卿			
	小名 玉花	里 芳倫			
【監事】	○阿久津由美	有友 啓扇	飯田恵美子	井形 大正	石井 政子
【評議員】	石川 杏華	石川 溪舟	石川 秀苑	石川 由美	石黒 鴻羽
	岩間 桃香	植田 泰之	黄木 孝一	大木 翠晃	○大谷 芳雨
	○大久 恵華	岡林 御舟	荻野 侑邨	刑部 翠風	小谷 翠谷
	梶井 香龍	加藤 桂谷	加藤 松亭	加藤 石泉	加藤 遊墨
	河原畑静揚	木谷 峰水	熊切 溪石	小久保里子	小嶋カズ子
	小関 麗翠	五戸 光岳	今野 美晁	佐久間撫扇	定野 桂雪
	佐藤マス子	澤村 春泉	篠原 寒鵬	柴山 枝峯	清水 小舟
	○菅井 裳雲	鈴木 暁昇	鈴木 蒼	鈴木 邦仙	須田 紅鸞
	高田 華光	高野 撫雪	○高橋 翠石	高橋 峰月	橘 黄華
	田端 香峰	塚原 桃虹	津久井桂葉	土田 芳水	○銅山 桂銅
	中川なほみ	中島 雪遥	中島 貞鵬	永田 昌子	○中西 美蕙
	中平 博子	中村 蘭香	成山 一葉	波多野久美	羽根田菖風
	早坂 喜伊	○林 清方	林 弘子	原田 統玄	藤井 峯子
	藤村 満恵	布施 夏翠	降幡 加津	古谷 紫水	堀川 梨華
	前田 聖峰	町田 昌畦	○町田 武山	松岡 静仙	松戸 清玲
	松永 光鳳	水原 白姚	三谷 旭心	蓑口 草川	宮崎 礼子
	村越 弘鷹	森 紀生	森田 香深	盛田 理泉	矢崎 藤香
	山口 了世	○山崎 玉松	山田 娃泉	山本てるみ	横田 玉華
	米山 石峯	我妻 信子	和田 玲砂	渡辺 敦子	渡邊 正峰
	○渡邊麻衣子	渡辺 龍泉			

第 36 回 産経国際書展 新実行委員長からひとこと

ご協力を

この度、実行委員長に推挙されました。元より浅学非才、重荷には感じておりますが、書会創立直前、菱山甫さんと話した「他の書会には無い魅力ある書会を」との熱意だけは今も健在です。でも熱意だけで職責を果たせないのは重々承知です。幸いにも各部の部長はじめ熱心な役員さんばかりですので皆様のご協力を戴いて、連携と風通しを良くし、各自が携わって良かったと思える様な活動になればと思いますし、私はその潤滑油的な役目を果たしたいと思います。先輩方が築き上げたその上に少しでも積み上げられればと思います。



岩浅写心実行委員長

なお来年には大勢の外国の方が来日します。書会でも国際の名に恥じないオモテナシで外国の方々に関心を持ってもらえるか計画をしなければなりません。どうぞ良いアイデアがありましたら耳に入れてください。書会は皆さん一人一人の書会です。お互いが協力し合ってより良い展覧会になるようお願い致します。

第 36 回 産経国際書展 審査員

●特別選考委員

石川天瓦、伊藤欣石、岩田正直、風岡五城、齋藤香坡、晋鷗、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、堀晃和、村越龍川、山下海堂、吉野毅

●漢字

今田篤洞、岩下鳳堂、大田桂水、大庭清峰、岡崎洋翠、勝田晃拓、五月女紫映、坂本香心、眞田朱燕、高木撫松、玉木白雲、鶴田秀紅、野尻春華、眞々田壽扇、平岡雄峰、平方峰壽、山本晴城

●かな

石川溪舟、伊藤春魁、今口鷺外、鎌田悠紀子、白崎菖汀

●現代書

生田佳葉、遠藤香葉、及川扇翠、小川艸岑、菊山武士、高頭子翠、田島青谷、中西美蕙、早坂喜伊、堀江宣久、松井玲月、ラモス逸子、渡邊麻衣子

●篆刻・刻字

石井長慶、岩浅写心、渡邊麗

●臨書

岩村恵雲、金丸鬼山、齋藤華秀、青陽如雲、田村政晴

●U23

影山瑤琴、武富明子、長谷川明扇、原田圭泉、松崎龍翠

第 36 回 産経国際書展実行委員会

●実行委員長	岩浅写心		
●審査部	本部長	村田白葉	
●審査部	漢字部		
	部長	今井翠泉	副部長 吉野富龍
	委員	大久恵華、恩田瑞貞、石川晴空、武翠泉、本橋春景、宮川彪子、横溝景陽	
●審査部	かな、篆刻・刻字、臨書部、U23		
	部長	浅香秀子	副部長 北野香春
	委員	関根春峰、土田芳水、平岡智子、松岡篁月	
●審査部	現代書部		
	部長	永田龍石	副部長 西川万里
	委員	進藤栄峰、加柴律子、菅井裳雲、十亀紫風、長岡輝美、平本一恵、我妻信子	
●搬出入部	顧問	青陽如雲	
	部長	磯邊哲舟	副部長 伊東玲翠
	委員	今井軒石、梶谷綾泉、神谷映水、小杉秀花、佐藤マス子、塚原桃虹、細谷紫水、村山蛭泉、矢野春潮	
●陳列部	顧問	岩浅写心、勝田晃拓	
	部長	山本晴城	副部長 渡邊祥華
	委員	阿久津由美、安蒜欣青、泉芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、五戸光岳、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、和田玲砂	
●図録部	部長	今田篤洞	副部長 岩村恵雲
	委員	青木錦舟、大久恵華、岡野蒼生、河原畑静揚、久米麗鳳、近藤豊泉、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香	
●東京部会	部長	武富明子	副部長 黒田浩芳
	委員	岩間桃香、久米麗鳳、近藤豊泉、平本一恵、山下翠風	
●東北展	顧問	本多道子、田村政晴	
	実行委員長	松崎龍翠	
	副実行委員長	奥村桃曄	
	事務局長	建部恭子	
	実行委員	大橋玉樹、五戸光岳、小嶋カズ子、田村恵子、芳賀祥緑、宮崎礼子、森紀生、渡部美恵子、渡辺龍泉	
●瀬戸内展	顧問	宮崎春華、森井翠鳳、世木田江山	
	実行委員長	大庭清峰	
	副実行委員長	上村陽香	
	実行委員	吉本麗竹、大田桂水、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、田中春畝、曾根小徑、竹増陽、松岡舟波、三宅秀紅、美之口琴晴	
●中部展	顧問	村越龍川、風岡五城	
	実行委員長	村田白葉	
	副実行委員長	勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華	
	実行委員	赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、岡本杏華、奥村耕雲、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍淵、松岡輝峰、村瀬敢山、吉田永欽	
●関西展	顧問	平方峰壽、今口鷺外、樽谷龍風	
	実行委員長	松井玲月	
	副実行委員長	正川子葉、久田方琥	
	実行委員	小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、西尾蘭畦、生田佳葉、篠原秀朋、竹内美翠、玉田子翠、山田秀園、山田姓泉	

新しく審査会員になられた方

浅川美彰	新井大鳳	伊東星昂	井上すみ子	上田綾美	大久保節子	大平美侑	大山香蘭	奥本恵舟
鎌田嘉壽	河島彩澄	児玉美登里	桜井知子	笹山紅樹	佐藤有光	塩川千津	清水畦花	白井幸風
須田瑞兆	高垣琴紅	瀧澤龍石	竹内花子	中村紅舟	中村青秀	新島繁恵	野崎子慶	福田世英
前田沙杏	丸田華芳	宮下信秀	横尾春風	渡辺吾風	渡辺千代恵			

新しく無鑑査になられた方

青砥光瑛	青野竹佳	浅岡桃苑	浅川旭信	阿部葉柳	新井輝志	アラン・ロウ	安藤法子	井沢環麗
石原圭芳	石原志仙	石嶺エツ子	稲葉淳子	内山硯翠	梅田ちか子	大石慈宝苑	大上光舞	大倉純子
大野瑞扇	大橋栄美	岡本桂草	奥野幽泉	小熊春洋	尾末静翠	小野敬子	小野香月	柿川澄石
柏村明子	加藤志瑛	加藤 操	金子征司	金田寿三枝	上坪芳春	神谷映水	亀山凰琳	川田芳樹
北畑円美	キム・ヨシカネ	木村幾月	國貞螢炎	久保秀竹	栗原清泉	グリーン薫	河野春径	河野秀喜
小林丁鵬	小林知子	齋藤雅貴	阪田佳凜	坂部翔友	坂本勝彦	櫻本静月	佐藤小菊	佐藤茜彩
佐野香翠	澤口貴美江	沢田白洋	澤田蘭香	上甲白嶺	菅 栄水	高砂華泉	高津佳代子	高橋岳城
高松谿雪	田口瓊姫	田中秀穂	田中嘩仙	玉木紅雨	玉木光華	丹下頌翠	程 中	中川龍峰
中西 儼	長野佳子	中村智子	新野彩香	西 英章	西島良祐	西山秀光	日根野貞水	平島東憲
藤田逸峰	藤田鳳洞	藤谷永翠	逸見涉仙	堀川雲峰	堀切清之助	本多美子	増田孝志	松田香峰
松林麗泉	松村進龍	松本稲華	三澤よし江	水野鳳扇	水元光明	三谷沙園	三井紀子	光谷春煌
宮眞由美	宮崎嘩鳳	民部田鳳春	虫明智恵子	宗行麗翠	村上紅恵	安田静扇	安田美保	柳沢秀雀
山崎眞聖	山崎翠嵐	山城昂風	山田梅苑	米澤千代	ロビンソン万里	渡辺青枝	綿貫勝一	

新しく会友になられた方

秋山晴舟	芦澤紫峰	安住美弥子	阿部祥子	井垣希風	伊藤俊明	井上空咲	岩崎清楓	岩崎 等
岩瀬喜内	岩村芳春	岩山淑子	植松結圓	臼井桂喜	江上真悟	遠藤久美子	大塚美雪	大友伸秋
柏久美子	片山寿美子	加藤葉月	金木杏花	金子蕙翠	金子静堂	金子寶石	苅米紀子	川口瑞芳
川口美窓	絹本竹里	小久保文乃	古澤葵扇	小嶋瑞香	小林允州	小森彩仙	小山加代子	近藤祥園
嵯峨帶琳	坂井礼子	佐藤静華	佐藤蒼舟	佐藤靖彦	佐伯百合子	鹿屋真由美	篠原良栄	島田昌広
進藤蒼游	神野富子	姿 光柳	杉浦桜泉	鈴木穂苑	鈴木瑞泉	鈴木栖城	鈴木智苑	鈴木萌園
鈴木美咲	銭谷佐智子	園田桃香	高島由紀子	高明明仙	高野芳竹	高橋秀翠	高橋孝子	高旨好子
田口利重	武田元崇	田近清風	田中康伸	土田真山	土屋荷香	土屋秀堂	角田穂香	坪井駿泉
寺島清美	中畦峰月	長澤桂蓮	中嶋永究	中島彩紅	西河時枝	西村美硯	沼田典子	野口映光
野口香竹	野口 勝	野坂みい	野沢恵秋	袴田春汀	橋本旭歩	林 帛甫	早矢仕郁春	半谷松華
福島白苑	牧野友里	正川子城	町田曠道	松井遊舟	松下仙龍	丸山静香	三井美知子	都沢美雪
宮崎玄煌	三輪峰舟	森尾南城	柳田朋真	山内雅鳳	山内恵子	山本悦子	吉川吟流	雷 雅子
李 若娜	渡邊洋子							

第35回記念 産経国際書展 新春展

新春展に思う

新春展は1月末とはいえ、なお新春の華やいだ雰囲気があり、会場も広く明るく開放感に満ちて、本展とはまた違った魅力を感じる。

今年は、産経国際書会35周年記念事業の最後を飾る新春展とあって、例年以上に強い期待感を持って開幕を迎えた。その思いは諸先生方もご同様のようで、初日から多くの来場者で大いに盛り上がりを見せた。

会場奥には台湾からの作品32点が特陳されている。その傍らには昨秋開催された「日本台湾交流書道展」の会場となった国立國父紀念館の精巧なジオラマが設置され、日台交流の場を彷彿とさせる。この機会に台湾からお客様を迎えて更なる交流を深める予定であったが、台湾の春節と重なって実現には至らなかった。誠に残念なことであったが、これで終わるわけではない。今後も機会を捉えて交流を深めていくことが大事だと思う。

新春展Ⅱでは若い人たちの台頭著しいことが実感された。大いなる期待を持って今後の成長を見守っていきたい。



実行委員長 風岡五城



新春展受付



ギャラリートークの皆さん



台湾作家の作品と台湾展ジオラマ



新春展Ⅱの作品の前で



会場風景



大作のギャラリートークを聞きいる



祝賀会にて



大作にびっくり

書会35周年記念行事の掉尾を飾る第35回記念産経国際書展新春展は1月23日(水)から2月4日(月)までの12日間、東京・六本木の国立新美術館で開催され、5,785人の方々に賑わいました。

33回目となる「代表展」は206点を展示、審査会員・無鑑査会員が出品する新春展Ⅰは、昨年より約40点も多い185点が出品されました。会友と、一般を対象とした公募部門である新春展Ⅱには484点の力作が寄せられ、会友奨励賞7点、産経新聞社賞6点、奨励賞31点が受賞の栄誉に輝きました。これに加え、今回は、昨年10月に台湾・台北市で行われた「2018日本台湾交流書道展」に出品された、張炳煌先生を始めとする台湾代表作家の作品32点を展示。この台湾コーナーには、台湾展実行委員長を務めた勝田晃拓副理事長が手作りした、50分の1スケールの国立國父紀念館(展示会場)の精巧なジオラマが展示されました。現地で撮影、実測し、出品作の展示位置から、椅子、机まで寸分たがわず再現した労作に、台湾展に出品した書家の皆様を始め、観覧に訪れた台湾文化センターの王淑芳センター長ら台湾関係者も足を止めて見入り、楽しかった台湾の思い出話に花が咲いていました。

31日(木)は、午後2時から会場でギャラリートークを行い、田村政晴常任顧問、松崎龍翠副理事長、小川艸岑常務理事、大作品者の伊藤春魁、渡邊祥華両常務理事、小宮求茜理事の合計6人がそれぞれの作品にかけた思いを語りました。午後4時から、明治記念館に場所を移し祝賀会を開催。王台湾文化センター長のほか、熊坂隆光産経新聞社会長、飯塚浩彦産経新聞社社長、最高顧問の田中鳳柳先生ら約180人が参加、新年の交歓を深めました。(事務局)

書と私

ママさんバレーボールのチームが解散になり、時々あいたいね！と書道の競書誌に出品することになりました。しかし、気がついたら競書誌を続けているのは、私一人になっていました。

当時、購読していた「婦人公論」の広告を見て、神田書学院に編入、卒業。そこで桑原江南先生の指導を受け、そのまま入門しました。そして第15回現日書展（昭和50年）に初出品、特選をいただきました。後に現日書展を主宰しておられた南不乗先生ともお会いし、京都での合宿に参加。いろいろありましたが、師を名乗る時は、このお二人という事で了解を得ました。

しかし、産経展に出品しませんか？とのお誘いを受けて南先生にお話ししましたが許可はおりませんでした。当時の産経の荻原正部長が間に入り、お話しくださいましたが、それでも色よい返事はいただけませんでした。「娘を嫁に欲しいと言っているのに考えない親はあるか！」と言ってくださいましたが、もの別れ。その上、南先生は月謝を受け取ってくれません。やむなく7回展から出品しました。



シャルジャにて



王様の前で揮毫

名誉顧問
竹澤 玉鈴



翌年の平成4年の行事で「プラハ・ウィーン・パリの旅」があり参加。湾岸戦争勃発のすぐあとの出発のため、参加者は11名でした。空港は銃を持った兵士に見守られる中で、私たちは回りました。どこでもボディチェックが厳しく大変でした。その時の思いをのせて書いた「飛翔」の二字が、第8回産経国際書展の現代書部門の会長賞に選ばれました。ただ、この喜びの前に南先生は亡くなり、墓前に報告しました。

その後も書会の行事では中国、台湾、韓国等に参加しました。アメリカ巡回展の最終地ロサンゼルスにも参加。ロヨラマリマント大学での席上揮毫。ラスベガス、グランドキャニオン等の見学も楽しかったです。

書会の行事ではなかったですが、アラブ首長国連邦のシャルジャの芸術局の要請で未知の国に行けたことは意義深いものでした。書会の今田篤洞先生のお世話で実現。王様の前での揮毫や夜間観覧車の前での、現地の方の参加を得ての行事は楽しかったです。そのおかげで第29回産経国際書展で高円宮賞を頂戴しました。有り難うございました。

また、シャルジャ出身のカタール大使夫人ともご縁が出来、大使、夫人の揮毫のお手伝いもさせていただきました。

これからも産経国際書会と共に歩んでいきたいと思っています。



林錦洞先生と三宅剣龍先生と北京にて、1995年

「第36回産経国際書展」特別色紙展の募集

この特別色紙展は第21回産経国際書展からはじまり今回で11回目となります。

高円宮妃久子殿下から、いつまでも無理なく書に楽しく取り組んでいただけるようにという思いで、毎回御題を下賜していただいております。

下記の要領にて実施いたしますので、資格のある先生方は奮ってご出品ください。

記

御 題	「徳」あるいは「雅」 どちらかを選んでください。
展示場所	東京都美術館ロビー階(予定)
期 間	令和元年 7月27日(土) ～ 8月3日(土)
作品体裁	色紙(273mm×243mm) ※数ミリの誤差はかまいません。
出 品 料	無料
出品資格	80才以上の会員。但し本展出品者に限ります。 ※会友以上、昭和14年以前(14年生まれは含む)に生まれた先生
締 切	令和元年 6月7日(金) 必着
応 募	作品に出品票を添えて、搬入先まで直接お申し込み下さい。
搬 入 先	藤和額装(株) 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12 T E L 045-833-5273 F A X 045-833-5275

◎応募いただいた作品は全て額装して東京本展に展示します(額装代は書会負担)。

◎各地方展へは当該地方在住者の作品を展示します。

◎作品は展覧会図録に掲載します。

◎作品は展覧会終了後、額装のままご返却いたします。

【問合せ】産経国際書会事務局 T E L 03-3275-8902 F A X 03-3275-8974

2019産経国際書会 夏期研修会「臨書を学ぼう！」 参加者募集 8月17日、18日、大手町サンケイプラザで

今年は、徹底して「臨書」を学びます。臨書とは書の古典を学ぶことであり、歴代の書家はみな古典法帖をあまねく涉獵、研鑽し自家の書法を立てています。臨書には形を中心に学ぶ「形臨」。感情、感性を中心に学ぶ「意臨」とに分けられます。臨書の要諦としてはおよそ「書技習得」、「鑑賞の深化」、「創作活動への資力」などが上げられます。

内容は、講義と実技(添削)です。8月17日(土)は、高橋照弘副理事長が楷書「九成宮」、青陽如雲常任顧問が隸書「曹全碑」を、18日(日)は、松崎龍翠副理事長が行書「蘭亭序」、風岡五城理事長が草書「書譜」を担当します。

【対 象】会員および産経国際書展出品をめざす方

【受 講 料】全日(2日間)3,000円、但し1日のみ受講は2,000円

【締切・定員】100人先着で7月19日申込み締切

【申 し 込 み】申込書に必要事項をご記入の上、産経国際書会事務局あてに郵送、F A X、またはemailでお申し込みください。事務局で確認次第、「受講票」と「郵便振替用紙」を郵送いたします。郵便局より受講料及びその他費用などを講習日までにお振り込み願います。※申込書は事務局にご請求ください。または書会HPよりダウンロード願います。

第22回公益信託 國井誠海書奨励基金に、生原凛々子氏(誠心社)



第22回公益信託 國井誠海書奨励基金の表彰式が3月12日、東京都千代田区の日本工業倶楽部で行われ、誠心社の生原凛々子氏(40)が受賞されました。

同基金は、元産経国際書会最高顧問で、現代書のパイオニアといわれた國井誠海先生が、平成8年に文化庁長官表彰を受賞されたことを記念し、同10年に設立。50歳以下の現代書分野の次代を担う優秀な若手書家を対象に顕彰し、書の普及・振興、日本文化の向上発展に寄与してきましたが、今回の表彰が最後となりました。

21年の國井誠海先生の死去後は、長女で現誠心社会長の渡邊麗先生(産経国際書会理事長代行)によって継続され、全22回の受賞者は実に総勢64人。多くの才能を世に送り出しました。産経国際書会からも、中野和博、山本晴城両常務理事、菊山武士専管理事らが受賞されています。また、5回展(山形・國井誠海記念館)、15回展(上野の森美術館ギャラリー)、20周年記念書展(上野の森美術館)と節目には受賞作家の作品展も行われました。

最後の受賞者となった生原氏は、女優としても活躍する渡邊先生門下の俊英。「人の心を動かせる作品を作れるよう精進したい」と喜びを語りました。

高橋照弘先生に文化庁長官表彰

産経国際書会副理事長で、2019産経ジュニア書道コンクール審査長もつとめる高橋照弘先生(71)が、平成30年度の文化庁長官表彰に選ばれ、3月18日、東京都千代田区の文科省講堂で、宮田亮平文化庁長官(=写真左)から表彰を受けられました。同表彰は文化活動に優れた成果を示し、我が国文化の振興に貢献した人や団体が対象。書会からの受賞は昨年度の村越龍川最高顧問に続き2年連続7人目となります。

高橋先生は、大東文化大在学中から手島右卿先生が創設された日本書道専門学校に1期生として入学。右卿先生の薫陶を受けるとともに、同大卒業後そのまま同専門学校に奉職、現在は理事長・校長の要職にあります。平成20年に第3回手島右卿賞受賞。昨年の国際書展新春展では、大作「風」を発表されたのは記憶に新しいところです。書会でも教育部と研修部を担当し、昨年の日本台湾交流書道展ではジュニア交流団長をつとめるなど、多大な貢献をいただいています。

高橋先生、おめでとうございます。



書 展 ト ピ ッ ク ス

加藤深流米寿書作展

加藤深流

●会期 2月5日(火)～10日(日) ●会場 銀座鳩居堂画廊3階

2月5日から10日までの6日間、銀座鳩居堂3階において産経新聞社の後援を得て開催。6日、銀座東武ホテルにて「野良太寸劇」からはじまる小宴を開きました。伊藤富博産経新聞社事業本部長、福本雅保書会会長代行、衆雅人事務局長、田中鳳柳書会最高顧問、風岡五城理事長先生をはじめ竹澤玉鈴先生、山下海堂先生等々の他、たくさんの先生方に御臨席いただき、いろいろと御指導を賜り、作品を恥じ入りながら励ましのお言葉を頂戴しました。



第30回記念書成会書展

建部恭子

●会期 2月19日(火)～24日(日) ●会場 セントラルミュージアム銀座

会が誕生して30年。30回記念展と名を掲げ開催した。今回から一部のサイズを変更した為、展示にもゆとりが出来、落ち着きと明るい雰囲気でご好評を博した。U22部門の若い人たちの出品も嬉しいことだった。産経の多くの先生方にもご来場、ご高覧いただき感謝しております。更に35回展、40回展を目指して研鑽を積んでいきたい。

書成会書展第30回記念田村政晴書展

田村政晴

●会期 2月26日(火)～3月3日(日)
●会場 セントラルミュージアム銀座

書成会書展が30回を迎えようとしていた。「一步踏み出せ」の声に後押しされて、思い切って開催しました。作品制作の2年間、夢中で日々筆を放さなかった。書作展は多くの方々にご来場賜り、盛会裡に終了できました。産経新聞社熊坂隆光会長、飯塚浩彦社長、書会、書成会の皆様のご支援のお陰と、心から感謝申し上げます。



第40回選抜研墨展

島村谿堂

●会期 3月11日(月)～16日(土) ●会場 小津ギャラリー

会期中、春の暖かさに恵まれ多くの方々に御高覧頂きました。第40回研墨展という節目を迎えることが出来ましたこと、皆様からの多面的支え、お力添えがあつてのことと感慨深い面持ちでございます。過分なるご評価と温かい御指導御鞭撻のお言葉に接し心より感謝申し上げます。個々に合った表現力、書の芸術への研鑽を今後も精一杯果たしていく所存です。

来年、令和2年1月の第36回新春展、大作を募集！

産経新春展の“顔”として定着してきた大作。

産経国際書会を代表する力溢れる大作の募集を行います。出品資格を満たせばどなたでも出品は可能ですが、大作は産経国際書会全体の力量が問われます。自薦、他薦ともに下見会を行います。

出品資格 無鑑査以上

応募締切 8月9日(金)

応募数 5点(最大7点まで)

審査日 9月19日(木) 予定

寸法 4×4 m以内

※下見会では、作品に関してアドバイスをを行い、時には書き直しなどをお願いする場合があります。

応募は書会事務局までご連絡ください。出品料は5万円、表具代を1点10万円まで補助します。

但し、6点の場合は8万円、7点の場合は7万円までとします。

長慶美術館が前橋市にオープン



昨年の第35回記念産経国際書展で中国大使館文化部賞を受賞した、石井長慶常務理事の刻書、絵などを展示する長慶美術館が4月21日、群馬県前橋市にオープン。受賞作「一日是生涯」や、夫人の松苑理事の作品など60点が展示されています。約200点を収蔵し、作品は随時入れ替える予定。親子2代にわたり、作品用の木材を用意してきた有限会社中澤木材の中澤伸之社長が、会社の敷地内にある木材展示場の内部を美術館として提供し、実現したとのこと。原則日曜のみ開館(10時～17時)。入館料は高校生以上300円。前橋市馬場町126-3。☎027・283・6863(日曜以外の来館は要相談)。(事務局)

森井翠鳳顧問、「阿弥陀佛十二光」を奉納

森井翠鳳顧問(88)が広島県竹原市の長養寺(浄土真宗本願寺派)の創建830年記念法要にて襖に揮毫した「阿弥陀仏十二光」を奉納しました。

無量光・無邊光・無碍光(むげこう)・無對光・焰王光(えんのうこう)・清浄光(しょうじょうこう)・歡喜光(かんぎこう)・智慧光・不斷光・難思光・無稱光・超日月光(ちょうにちがっこう)。(事務局)



書道3団体が協力して、2020年に大書道展を開催

来年の東京オリンピック・パラリンピックの開催にあわせ、産経国際書会、毎日書道会、読売書法会の3団体を中心に日本を代表する現代書家が様々な表現様式で新作を出品する「日本の書200人選～東京2020大会の開催を記念して～」が開催される運びとなりました。期間は令和2年4月25日(土)～5月10日(日)の16日間で、会場は東京・六本木の国立新美術館。3月1日付で実行委員会が発足し、書会からは、飯塚浩彦産経新聞社社長が名誉顧問、齋藤香坡、佐々木月花、田中鳳柳、村越龍川の書会最高顧問が顧問、伊藤欣石副会長と手島泰六名誉顧問が副実行委員長にそれぞれ就任されました(実行委員長は田中壮一郎・全国書美術振興会会長)。今後開催に向けての準備が進んでいきます。(事務局)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈令和元年5月~10月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

5月

第89回公募斯華会書道展

- ①5月9日(木)~5月12日(日)
- ②セントラルミュージアム銀座
- ③小野 之右

第44回梓書道会展

- ①5月17日(金)~5月18日(土)
- ②タワーホール船堀
- ③市原 蘇水

書人クラブ展

- ①5月17日(金)~5月19日(日)
- ②フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ
- ③岩村 恵雲

第46回鍾雲書道展覧会

- ①5月18日(土)~5月19日(日)
- ②寄居町立総合体育館
- アタゴ記念館
- ③大澤 芳州

翠香会書展

- ①5月22日(水)~5月26日(日)
- ②君津市生涯学習交流センター
- ③齊藤 春欣

鎌田悠紀子書展

- ①5月28日(火)~6月2日(日)
- ②銀座鳩居堂画廊
- ③鎌田 悠紀子

6月

第11回青成会書展

- ①6月4日(火)~6月9日(日)
- ②大黒屋ギャラリー6階
- ③木住野 栄

2019臨泉会選抜小品展

- ①6月4日(火)~6月9日(日)
- ②銀座鳩居堂画廊4階
- ③佐々木 月花

O書展

- ①6月4日(火)~6月9日(日)
- ②ギャラリーやまざき
- ③山下 海堂

第35回記念蕉邦会書展

- ①6月18日(火)~6月23日(日)
- ②銀座鳩居堂画廊4階
- ③人見 恵風

第55回記念書峰展

- ①6月22日(土)~6月23日(日)
- ②秩父じばさんセンター
- ③田島 青谷

7月

2019年 誠心社現代書展

- ①7月3日(水)~7月8日(月)
- ②東京都美術館 2階 第3展示室
- ③渡邊 麗

第15回朋栄社書展

- ①7月17日(水)~7月21日(日)
- ②羽村市生涯学習センター
- ゆとろぎ展示室
- ③木住野 栄

岩間清泉遺墨展

- ①7月27日(土)~8月1日(木)
- ②ギャラリーやまざき
- ③小杉 修史

8月

第48回墨林綜合書展併催第48回学生墨林綜合書展

- ①8月5日(月)~8月11日(日)
- ②東京都美術館 2階 第1展示室
- ③遠藤 乾翠

第41回墨晨書展 墨の祭り

- ①8月16日(金)~8月19日(月)
- ②埼玉会館
- ③岩田 正直

ADIHEX2019

- ①8月27日(火)~8月31日(土)
- ②アラブ首長国連邦アブダビ
- ③五月女 紫映

9月

第36回日本綜合書作院展

- ①9月3日(火)~9月8日(日)
- ②大阪市立美術館
- ③篠原 秀朋

第34回全国臨書模刻展

- ①9月5日(木)~9月8日(日)
- ②埼玉会館
- ③岩浅 写心

Group F2019展vol4

- ①9月10日(火)~9月15日(日)
- ②galleryG(広島市)
- ③植木 由樹子

第35回瑤樹会書展

- ①9月19日(木)~9月22日(日)
- ②フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ
- ③岡村 公裕

世界平和交流書画作品展

- ①9月30日(月)~10月5日(土)
- ②銀座第7ギャラリー
- ③鎌田 悠紀子

10月

第27回柏葉書展

- ①10月15日(火)~10月18日(金)
- ②パレット柏(柏市民ギャラリー)
- ③高頭 子翠

第51回一煌会書展

- ①10月17日(木)~10月19日(土)
- ②銀座洋協ホール
- ③石川 天瓦

客員顧問・霧林道義先生死去



産経国際書会客員顧問で、産経国際書展特別審査員もつとめられた詩人、霧林道義先生が2月12日、栃木県のご自宅で肺炎のため死去されました。92歳でした。霧林先生は、元最高顧問の國井誠海先生とのご交遊が深く、書会のほぼ創設時から顧問、のち客員顧問を務めていただきました。第5~7、9、21~27、31回展では特別審査員として審査にも加わっていただいています。頭脳明晰、温厚なお人柄で、詩の創作と老子の研究に生涯を捧げられ、お話ししていても、言葉のひとつひとつに重みがありました。謹んで、心からの感謝とご冥福をお祈りいたします。(事務局)

追 悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

客員顧問	霧林道義(平成31年2月)	会 友	木村如西(平成30年10月)
参 与	大川峡暮(平成31年1月)	会 友	島岡真海(平成30年12月)
無 鑑 査	田中大巖(平成30年4月)		

編 集 後 記

新元号が「令和」と改まり、平成から令和へと、新しい明るい日本の躍進する兆しを感じられます。

さて、書会も「第35回新春展」が2019年の幕開けとなり、会場も大作をはじめ多彩な作品群が並び、多くの来場者で賑わいました。「第36回産経国際書展」ならびに「2019産経ジュニア書道コンクール」が東京都美術館で同時開催となり、一体化した展覧会はますます盛況を呈することと思います。

第36回展に向けて、各運営・実行委員会も発表され、力強く始動しました。今年は研修会も開催されます。国際交流や若手の育成など、積極的に前進する書会が、皆様のご協力により更に躍進することを目指して参りたいと思います。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行 令和元年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。